

○新たな国民病「慢性腎臓病（CKD：Chronic Kidney Disease）」

慢性腎臓病（CKD）とは、腎臓の働きが健康な人の60%以下に低下するか、またはタンパク尿が出るといった腎臓の異常が3か月以上続くすべての腎臓病を指します。

わが国の2005年のCKD 患者数は成人人口の12.9%、約1,330万人と推計*され、8人に1人がこの病気にかかっていると考えられます。

*平成23年度厚生労働省CKDの早期発見・予防・治療標準化・進展阻止に関する研究班

○慢性腎臓病の発症と進行

生活習慣病（高血圧、糖尿病など）やメタボリックシンドロームとの関連も深く、誰もがかかる可能性のある病気です。腎臓は体を正常な状態に保つ重要な役割を担っているため、慢性腎臓病によって腎臓の機能が低下し続けることで、様々なリスクが発生します。

初期には自覚症状はほとんどありませんが、放っておくと、どんどん進行して取り返しのつかないことになる恐れがあります。

進行すると、夜間尿、むくみ、貧血、倦怠感、息切れなどの症状が現れてきます。症状が悪化、腎臓機能が正常に働かない「慢性腎不全」へと症状が進んだ場合は、生命を維持するため、最終的に人工透析が必要な状態となってしまいます。

○慢性腎臓病の予防

定期的に健康診断を受け、尿や血圧の検査をすることが早期発見につながります。

今回のイベントは、福井大学医学部腎臓病態内科学教室の医師をはじめ医療スタッフにより、尿検査や血圧測定、健康相談を行います。また、フードモデルを使った食事相談や腎臓病と関係の深い“減塩”をテーマにした県民公開講座も開催します！